

令和4年度みどりの食料システム戦略緊急対策交付金のうちグリーンな栽培体系への転換サポート

産地戦略

事業実施主体名： 高度利用農地における環境負荷低減推進協議会

都道府県名： 静岡県 対象品目： スイートコーン、レタス

策定年月： 令和5年3月 目標年次： 令和9年

※事業実施計画における目標年度の翌年度から5年目とする。

環境負荷軽減の取組

○	化学農薬の使用量低減		化学肥料の使用量低減		有機農業の取組面積拡大		温室効果ガスの削減 (水田からのメタンの発生抑制)
	温室効果ガスの削減 (バイオ炭の利用)		温室効果ガスの削減 (石油由来資材からの転換)		温室効果ガスの削減 (プラスチック被覆肥料対策)		温室効果ガスの削減 (CO ₂ 、N ₂ Oの排出削減)

※ 複数の栽培体系を検討した場合は、栽培体系ごとに産地戦略を策定すること。

第1 事業実施地域の現状と目指すべき姿

1 事業実施地域

静岡県周智郡森町

※事業実施計画書第1の4の事業実施地域を記載。

2 事業実施地域の現状

本地域では、高齢化による農業の担い手不足が深刻化しているが、担い手のいない農地は主に大規模農業法人が借り受けることで、農地の維持が図られている。しかし、今後も引き続き担い手不足が予測されるため、法人が管理できる栽培面積が限界に達することが見込まれる。特に農薬散布作業は労働時間を要するとともに労力負担が大きく、さらに農薬散布は地域の環境に与える影響も大きいため、省力かつ環境負荷の少ない技術の確立が求められている。

※1の事業実施地域の現状について、実施しようとしている環境負荷軽減の取組の実施状況等、課題と認識している点について具体的に記載。

3 事業実施地域を目指すべき姿

本地域は水稻及びレタス、スイートコーンの輪作体系が定着しており、水田を高度利用した輪作体系におけるドローン活用技術（農薬散布技術）が確立されることで、法人の更なる栽培面積の拡大や品質の向上等が可能となる。これにより地域の担い手への農地集積が進み、優良農地が維持される。併せて、農薬散布量の減少による環境負荷低減効果が期待され、技術の導入が進む。

※事業実施地域内へのグリーンな栽培体系の普及により、2に記載した課題がどう改善され、どのような姿になるのかを具体的に記載。

第2 グリーンな栽培体系の普及に向けた取組

1 今後普及すべきグリーンな栽培体系

ア 取り入れる技術

	取り入れる技術	期待される効果
環境にやさしい栽培技術	ドローンを活用した農薬散布	化学農薬の使用量低減 (スイートコーンでは35%、レタスでは20%の低減見込み)
省力化技術	ドローンを活用した農薬散布	農薬散布に要する作業時間低減 (スイートコーンでは85%、レタスでは68%の低減見込み)

※環境にやさしい栽培技術欄には、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に対応する技術を記載。

※期待される効果は、検証結果、計画書に添付したバックデータ等を踏まえて、可能な範囲で定量的に記載する。

イ 現在の栽培体系

項目	作業時期												備考		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業段階	スィートコーン	播種	農薬散布	収穫							播種	Qトンネル			
	レタス	農薬散布	収穫				播種		定植		農薬散布	収穫	Qトンネル		
技術	農薬散布：動力噴霧機			(水稲：施肥、除草、防除)						農薬散布：動力噴霧機					

※事業実施地域における現在の一般的な営農体系を記載。
 ※作業時期は作物の栽培期間等に応じて調整可能。



ウ グリーンな栽培体系

項目	作業時期												備考		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
作業段階	スィートコーン	播種	農薬散布	収穫							播種	Qトンネル			
	レタス	農薬散布	収穫				播種		定植		農薬散布	収穫	Qトンネル		
技術	農薬散布：ドローン			(水稲：ドローン施肥、除草、防除)						農薬散布：ドローン			※規模拡大が可能となる。		

※アで記載した「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化技術」が、栽培体系のどの工程に取り入れられるのか明確に記載。

2 新たな栽培体系の普及に向けた目標

ア 環境負荷軽減の目標

指標		年度	品目	R4 (現状値)	R9 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	化学農薬の原液使用量低減 (殺虫剤)		スイートコーン	100	65	▲35%	現状値 (有)佐野ファームの防除体系
	単位	mL/10a	レタス	80	64	▲20%	
2							
	単位						
3							
	単位						

※指標欄については、表紙で選択した環境負荷軽減の取組に応じて指標を設定する（化学農薬の散布回数、成分数、化学肥料の使用量、窒素成分量 等）。

また、設定した指標の単位が分かるように記載。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※化学農薬の使用量低減の取組については、化学農薬の使用量の低減割合の目標を設定する。ただし、導入する技術により、使用量の低減の確認が困難な場合は、取組面積の目標を設定する。

※化学農薬の使用量低減の取組については、どの剤の使用量を削減したか、どの剤からどの剤に切り替えたか分かるように記載。

※化学肥料の使用量低減の取組については、化学肥料の使用量低減割合の目標を設定する。

※有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減の取組については、新たに取り入れる技術の取組目標面積を設定する。面積以外の指標で目標設定ができる場合は追加で設定することも可能。

※温室効果ガスの削減の取組については、ウにおいて取組面積の目標を設定することで、環境負荷軽減の目標設定に代えることができる。複数の技術を取り入れる場合に、個別の技術について取組面積の目標を設定する場合等、グリーンな栽培体系の取組面積以外に目標設定する場合は、アにおいて目標を記載することができる。

※備考欄には、現状値等の出典（現行のJA等の栽培暦、都道府県や市町村等の指標、検証農家の作業日誌や帳簿等からの試算など）を記載。

※1つの栽培体系で複数の環境負荷軽減の取組を組み合わせる場合は、取組ごとに指標を設定し、記載欄が足りない場合は適宜追加する。

イ 省力化目標

指標		年度	品目	R4 (現状値)	R9 (目標値)	増減率 (%)	備考
1	農薬散布時間の削減		スイートコーン	51	8	▲85%	現状値 R4年度協議会試験結果
	単位	分/10a	レタス	19	6	▲68%	
2							
	単位						
3							
	単位						

※指標欄については、原則、取り入れる省力化技術に応じて、作業人員の削減、作業時間の削減、作業工程の削減の目標を設定する。複数設定する場合は、適宜記載欄を追加する。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※アシストスーツなど、定量的な目標設定が困難場合は、指標は当該技術を取り入れる面積とし、備考欄を追加して検証を行った農業者に対するアンケート等により確認した省力化の効果を記載。

※備考欄に現状値の出典（統計値、都道府県の農業経営指標、JA等の栽培暦、検証農家の作業日誌等からの試算など）を記載。

ウ 普及を目指す面積

(単位：ha)

指標		年度	R4 (現状値)		R9 (目標値)		増減率 (%)	備考
				計		計		
対象品目全体の作付面積 (ha)	スイートコーン		60	150	60	150	0%	地域におけるスイートコーン、レタスの面積維持
	レタス		90		90			
うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積 (ha)	スイートコーン		0.8	4.6	7	29	-	
	レタス		3.8		22			
普及割合			3%		19%			

※対象品目全体の面積については、事業実施地域全体の面積（母数）を記載する。水稲（主食用米）を対象品目とする場合は、水田収益力強化ビジョン等における主食用米作付面積の傾向を踏まえて目標値を設定すること。

※目標値は表紙の目標年次における目標値を記載。

※増減率は $\text{目標値}/\text{現状値}-1 = \text{増減率}$ で算出。

※「うち、グリーンな栽培体系に取り組む面積」欄には、第2の1のウに記載する「グリーンな栽培体系」に取り組む面積を記載する。

※生分解性マルチへの転換等、1つの栽培体系を複数品目に適用する場合等であって、品目別に目標を設定する場合は、品目ごとに表を作成。

第3 関係者の役割分担及び取組内容

構 成 員	役割分担及び取組内容				
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度 (目標年次)
有限会社佐野ファーム	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の実用化に向けた委託散布の実施 レタスの防除効果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 補助事業等を活用したドローンの導入 ドローン操縦資格の取得 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の実施 経営面積の拡大
ヤマハ発動機株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の技術的助言（登録農薬、散布方法等） 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の技術的助言（登録農薬、散布方法等） 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の技術的助言（登録農薬、散布方法等） 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の技術的助言（登録農薬、散布方法等） 	<ul style="list-style-type: none"> ドローン農薬散布の技術的助言（登録農薬、散布方法等）
森町	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 地域内生産者への普及 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 地域内生産者への普及 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 地域内生産者への普及 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 地域内生産者への普及 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 地域内生産者への普及
静岡県 (普及組織：中遠農林事務所)	<ul style="list-style-type: none"> ドローン導入コストの検証 試験結果等の情報発信 ドローン導入支援 他地域からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 試験結果等の情報発信 ドローン導入支援 他地域からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 産地戦略の中間評価会の開催 試験結果等の情報発信 ドローン導入支援 他地域からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 中間評価会での改善事項の検討 試験結果等の情報発信 ドローン導入支援 他地域からの情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 目標年度のとりまとめ 試験結果等の情報発信 ドローン導入支援 他地域からの情報収集

※新たな営農技術体系の普及・定着に向けての役割及び取組内容を具体的に記載してください。

※記載欄は適宜追加する等調整してください。

第4 その他(任意項目等)

※販売形式、販路開拓の検討状況、出荷先、PR方法等の販売方法や、他の補助事業等を活用した機械導入等の環境整備の計画等、栽培体系の普及に向けて位置付けておく事項があれば、**適宜記載欄**を設けて記載。